



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2020年2月号

語彙力を制する者は勉強を制する

以前のYES通信で、「早教育と天才」という本を紹介させていただきました。この本には、天才を育てるためには特別なことをする必要はなく、「いかに早い段階で沢山の言葉を教えることが出来るのが大事」だと書いてあります。

ポイントとしては、1 遊びの中で楽しく教育する。2 いかに早く言葉がわかる子供にするかが大事。3 子供を子供としてではなく小さい大人として教育する。4 集中、熱中が大事。の4点です。

小さい子供ほど熱中しやすいので、早く言葉がわかるようになると自然と学び始めるのです。そのために子供には、赤ちゃん言葉を教えるのではなくきちんとした言葉を教えていくことが大事だと書いてあったと紹介させていただきました。

速聴読を始めて1年半になりますが、改めて語彙力の重要性を痛感するとともに、この本の偉大さを再認識しています。

速聴読を受講すると、半年に一回語彙力診断テストを実施しています。語彙力診断テストの語彙力が高い生徒は総じて勉強も得意な生徒が多く、中でも小学5年生なのに中3レベルの語彙力がある生徒は、小学校で実施される全国学力診断テストの国語がなんと満点だったそうです。

それとは反対に語彙力の低い生徒は総じて勉強の

苦手な生徒が多く語彙力が高まるにつれて勉強も得意になっていくようです。

勉強がとても苦手な4年生の生徒がいました。読むことと自分が苦手にしく、テキストもなかなか読んでもくれないので授業をするにも全く手が付けられませんでした。

あまりにも進まないで、語彙力診断テストを試してみませんか?と提案させていただきました。語彙力診断テストをしたら、なんと小学4年生なのに語彙力が1年生レベルだったのです。この結果を見て改めて何をすべきか考えました。まずは、本を読む抵抗をなくすために、速聴読を受講していただき低学年の絵本から始めることにしました。

その後、講師からの提案もあり小学1年生からのテキストを使う事にしました。プライドの高い生徒なら抵抗するだろうなあ〜と思いながらも進めていくと、なんとめっちゃ集中して勉強するではありませんか?

今まで全然進まなかったテキストも、嘘のようにたった2か月足らずで一冊目を終わらせ、その後順調に2年生のテキストを終わらせることが出来ました。もうすぐ4年生のテキストに移る予定ですが、その時に以前とどのように変わっているのか?今からとても楽しみで仕方がありません。

また、転動して来られた方が、集団塾に通っても大手の個別指導の塾に通っても全く結果が出なかったと相談にお見えになりました。転動して糸島に来た際に、全く異なったアプローチをしているYESのことが気になったそうです。

私の提案は「まだ2年生だし、焦らずに急がば回れで基本的な力をつけませんか?」と、そろばんと速聴読の受講をお勧めしました。最初こそ集中力が欠けていた面もありましたが集中力もどんどんついてきました。お母様の話では、学校の国語の点数が上がり100点も取れるようになったそうです。最近、この生徒は早めに塾に来たら読書もしているで、今回の語彙力診断テストが楽しみです。

これらの事例に関しては、提案をしっかりと受け止めて実行してくれている、生徒さんはもとより趣旨を理解して協力いただいている保護者様のおかげです。おかげ様で、子供の語彙力アップに関してはかなりのノウハウが蓄積されてきています。興味のある方はご連絡くださいませ。



やる気相談室

多様化

選択肢の多様化をこの一年で痛切に感じました。

最近、世の中が多様化していると言われているのですが、当然、受験の

制度も多様化しています。

こんな受験の仕方があるのかというほどびっくりさせられます。

この一年で保護者様より多くのことを学ばせて

いただきましたが、その中でも一番驚いたことを紹介します。今年の受験生のお母様が面談の際にこんなことをお話になられました。「うちの子は依存心が強くて自分では何も出来ないの、普通に高校に行かせるよりも海外の日本人学校に行かせた方が良いと思うのです。海外での生活費のこともあるのでマレーシアなら治安も良いし物価も安いので良いと思うのです。」……この話を聞いて、ついにこんな時代が来たのかと本当にびっくりしました。そのお

母様が仰っていました、勉強は確かに日本の高校の方が学べると思うのですが、人間的な学びは圧倒的に海外の日本人学校の方が学べると思うのです。

ある意味この決断も、最初はお母様の提案から始まったようですが、親子でアメリカに旅行した後に、最後は本人が決断したそうです。

本人にも直接聞いてみました。アメリカに行ったら、とても幸せそうな裕福な人と貧しいホームレスを目の当たりにしたことで、世の中の厳しさがわかり、自分を変えないといけないと思ったのだそうです。

そのお母様の話ではそのような選択をする方が、知り合いにもいらっしゃるそうで、これからはこのような選択も出てくるのだと改めて感じた次第です。

人生を長い目で見れば、このお母様のおっしゃる通りに人間的な成長という観点からもっといろいろと考える余地があるなあと感じます。

さらに、私の友人のお子様が通信制高校

から国立大学受験を考えていたそうなのですが、セブ島でプログラミングを学びたいと言いつつ、そこに行かせることにしたという話を聞いたのです。

プログラミングだけなら国内で学べばよさそうなものですが、語学も同時に学べるということもあつての決断だそうです。また、その子に若干障害があり、失敗を繰り返す個性があるらしいのです。それを受け入れてくれる国民性が、フィリピンにあることが決めた理由の一つだそうです。

卒業生の中には、最初は日本で保育士として働いていたのですが、今はカナダで保育士になっている方もいます。お母様の話では、外国は日本に比べて保育士の地位が高く給料も高いから、日本には帰ってきたくないと言っているそうです。本当にいろいろな考え方があるものだ、みなさんから学ばせていただいています。

それにしても、東京に就職する感覚で海外に就職したり留学したりする時代になってきましたね。

デイビッド・モントゴメリー著

土と内臓

書籍紹介

内臓と土は、多くの微生物がいることで共通しています。そして微生物なしには、植物も人も本当に必要なものを体内に取り込むことが出来ません。土の中に無数の微生物がいることはすぐに理解できますが、我々の内臓の中にも土に負けない無数の微生物がいます。栄養学を学び始めて腸内環境に興味を持ち、色々な本を読んだ中で、この本はこれからの健康観を変える本だと感じました。農業は土作りとも言われるくらい畑の土を大事にしますが、人間の健康も腸内の環境をいかに良くするかで決まるのです。最近の研究では腸内の環境が変われば性格まで変わってしまうのだそうです。我々の体内に住む膨大な数の細菌のことをマイクロバイームといい、そのまとまりがヒトの細胞とやり取りをしながら、私たちの身体の生理機能をコントロールしているのです。今その研究がどんどん進められていて、鬱っぽいマウスのマイクロバイームを活発なマウスのマイクロバイームに入れ替えただけで、マウスが活発な性格になったとの報告もあるそうです。人の感情を表す言葉も「腸が煮えくり返る」とか「腹の虫がおさまらない」など昔からの言い伝えでも腸に類する言葉が多いことから、マイクロバイームはとても重要なキーワードではないかと感じています。

